

白門58会通信

第6号

平成26年9月20日(土)

発行者 中央大学学生会白門58会支部

東京都新宿区高田馬場2-14-6 アライビル7階 コンサルファーム有限公司 内

<http://www.ene-web.com/chuo/chuo58@noracom.co.jp>

入学後35年

1979年入学
1983年卒業

多摩・後楽園ともに大きく変わりました

特集◎多摩・後楽園のいま

同期インタビュー◎ノンフィクション作家 門田隆将氏

会員の近況／活動報告・計画

写真・ヒルトップ隧道2014年

ホームカミングデーでお会いしましょう



10月26日(日)・多摩キャンパス

当日の集合場所は

ブログ・フェイスブックでご確認ください

10月26日多摩キャンパスにおいてホームカミングデーが開催されます。当日は多くの卒業生が集い、イベントを楽しみます。当日参加できる方は、58会のブログ・フェイスブックをご確認ください。懐かしい仲間、初対面の同期との歓談の場を設けたいと思います。

変わったことを知る 変わらないものを探す

トンネルを歩いて通った多摩キャンパスには、モノレールの駅ができています。木々の緑が深くなり、桜が立派になっています。



多摩



100周年記念ステージ①



私たちが卒業後にできたもの 100周年記念ステージ

1985年の100周年にあたり駿河台キャンパス南門と2号館入口を移築し作られた①。

総合政策学部と11号館

1993年に開設。「政策と文化の融合」を理念とし、外国語教育を重視。「総政」(そーせい)と呼ぶ学生も多い②。

虚白庵

1996年に建設された茶室。白門祭などでは野点が行われる③。

多摩モノレール

2000年1月に上北台～多摩センター間が開通し、「中央大学・明星大学駅」が開業。立川(中央線)、高幡不動(京王線)、多摩センター(京王線・小田急線)からの乗り換えで利用されている④。

「炎の塔」

2002年に7号館の裏に建設された国家試験受験団体用の研

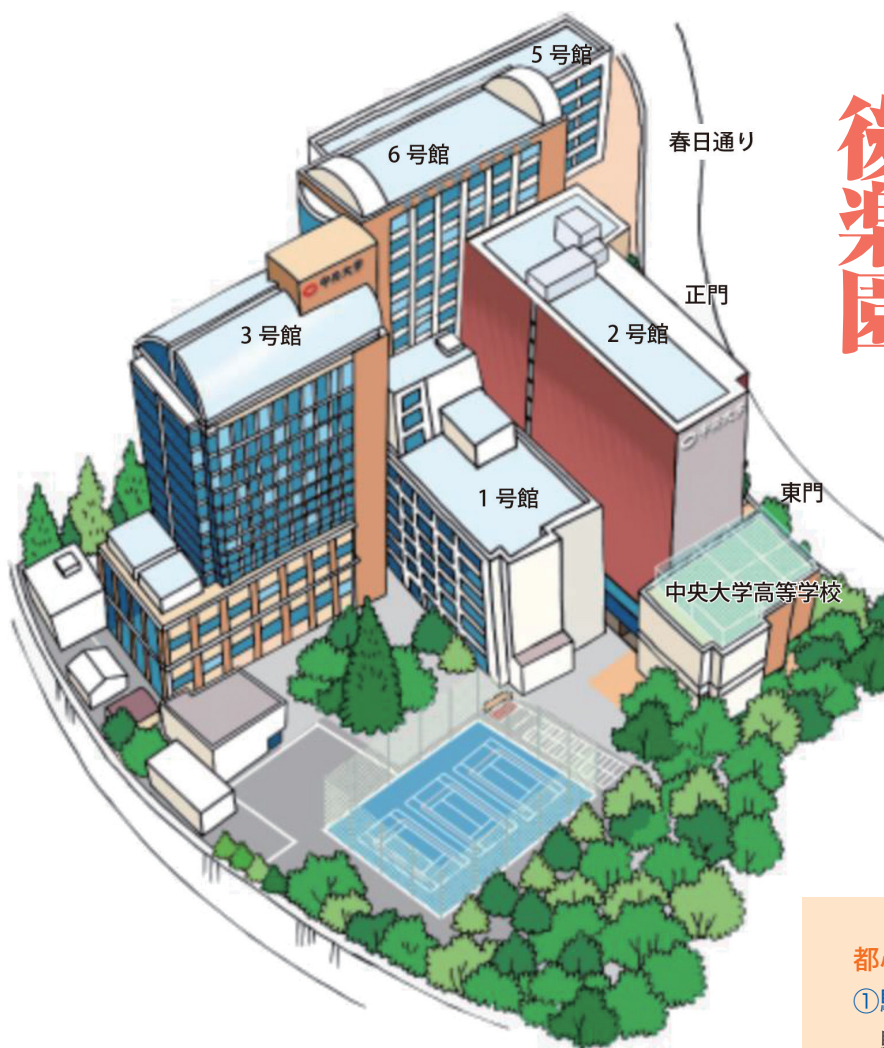
究棟⑤。

Cスクエア

2003年に3号館文学部棟と4号館サークル棟の間に建設された学生活動のための建物。サークル室のほか、ホールやカフェもある⑥。

耐震補強

大半が旧耐震基準だったため、2007年度から2010年度にかけて大規模な耐震補強が行われた。そのため窓やベデストリアンデッキには×の補強がされている。塗装も真っ白からややグレーに変わっている⑦。



後楽園

後楽園キャンパスには高層校舎が建ち、女子学生や付属高校の女生徒たちの姿も目立ちます。

たまには母校に立ち寄って、時の流れを感じてみてはいかがでしょうか。



私たちが卒業後消滅したもの

ヒルトップ内の民間食堂

「アカクラ」「宮城野」「メトロ」などは撤退。その後もテナントの異動があったが、現在はすべての階の食堂を生協が運営している。

バスターミナルの吉野家

バスターミナルにあった吉野家はすでにない。正門を出て左、かつての郵便局はモノレール駅側に移転し、11号館通信教育学部棟になっている。

ヒルトップ2階のサークルのたまり場

未公認サークルなどが溜り場としていた生協カフェテリアのセントラルプラザ側は、「グローバルラウンジ」として留学生との交流の場となっている。

夜間部 (2部)

法・経・商・理工は2007年に、文は2008年に夜間部 (2部) を廃止した。

イラストマップは中央大学ホームページより。写真は会員撮影のほか、白門フォト、学員時報より。

都心の大学施設

①駿河台記念館

駿河台校舎跡地に建てられた大学会館。同窓会本部である「学会会」事務局もある。

②市ヶ谷キャンパス

法科大学院のキャンパス。防衛庁横。

③市ヶ谷田町キャンパス

中央線から見えるキャンパス。国際会計と公共政策の研究科 (大学院) が置かれている。



中央大学は時空を越えた 不思議な力を持っている

～多くの取材で中大OBの協力を得る

ノンフィクション作家 **門田 隆将 氏**

昭和58年法学部政治学科卒



白門58会は、同期でノンフィクション作家の門田隆将氏（56）に、特別インタビューした。「惜別の歌」が中央大学の「第二校歌」になった経緯を著書「康子十九歳 戦渦の日記」で、克明に記した門田氏。「多くの取材で、中大の先輩たちにお世話になった」と語る。青春を過ごした大学時代の思い出から、「母校を愛するが故に」と、辛口のコメントも飛び出した。（聞き手は、本誌編集長の内山勢＝58年経済学部経済学科卒）

「入学式で、当時の戸田修三学長が『君たちには学問をする自由がある。しかし、それは学内だけでするものではない。君たちが学外で学ぼうとすることも中央大学は支援する』と挨拶された。今でも忘れません」。

門田氏が入学した昭和54（1979）年4月は、駿河台から多摩へキャンパスが移転して2年目。広大な敷地に広がる真新しい近代的な白亜の校舎は、当時、大学関係者や受験生の注目を集めた。「中央大学ってすごいなと思いました。司法試験、公認会計士試験、地方上級試験等々、資格試験で常にトップを争う大学の学長自らが、要するに『授業に張り付いていなくてもいい』とおっしゃったわけですから」

街自体がキャンパスだった駿河台校舎と違い、緑に囲まれ、講義から食事、部活までキャンパス内だけで事が足りる多摩での学生生活は、「社会に学ぶ」という刺激に欠けることも事実だ。門田氏は戸田学長の言葉の通り、いや、それ以上に、ほとんど授業に出席せず、学外に飛び出した。

マスコミサークル「グループH（GH）」、自ら創設した「評論誌研究会」の活動に没頭した。GHの拠点は、神保町の喫茶店「ラドリオ」。テレビ局や出版社のアルバイトにも精を出した。まだ、外国人に完全に開放されていなかった中国も巡り、帰国後知られざる中国の実態をえぐるルポも書いた。週刊誌記者、ノン

【略歴】かどた・りゅうしょう 高知県安芸市生まれ。本名・門脇護（かどわき・まもる）。1983年3月、中央大学法学部政治学科卒。同年4月、新潮社に入社、週刊新潮編集部配属。記者、デスク、副部長を経て、2008年4月に独立。週刊新潮時代は、特集班デスクとして18年間にわたって政治、経済、歴史、司法、事件、スポーツなど、さまざまな分野で800本近い特集記事を執筆した。

独立後、“毅然と生きた日本人”をテーマに、ノンフィクション作家として次々と話題作を発表。主な著書に、「甲子園への遺言―伝説の打撃コーチ高島導宏の生涯」（講談社）、「なぜ君は絶望と闘えたのか―一本村洋の3300日」（新潮社）「康子十九歳 戦渦の日記」（文芸春秋）、「この命、義に捧ぐ 陸軍中将根本博の奇跡」（集英社、第19回山本七平賞）、「死の淵を見た男―吉田昌郎と福島第一原発の500日」（PHP）などがある。

朝日新聞の『吉田調書』スクープには当初から『誤報』と指摘、今回の朝日新聞の誤報謝罪のきっかけを作った。

フィクション作家としての基盤はそうした学生生活の中で育まれた。

ノンフィクション作家になり、門田氏は中央大学の人材の層の厚さに驚嘆する。2冊の著書「甲子園への遺言」の主人公・高畠導宏さんは、中央大学野球部の出身だった。高畠さんは、イチロー、落合博満、小久保裕紀、田口壮などの一流プロ野球選手を育てあげた名打撃コーチ。「私が大学の後輩だというだけで、親しくしてくれて、息子の野球のコーチまでしていただきました」

「康子十九歳」では、「惜別の歌」を作曲した藤江英輔さんが登場する。作詩は島崎藤村の「若菜集」の「高樓（たかどの）」の詩だ。東京・十条の陸軍造兵廠第三工場に学徒勤労動員中、戦地に赴く学友を送る歌として曲が作られた。戦後も愛唱されている。「高畠さん、藤江さんをはじめ、多くの大学の先輩たちの協力によって、感動のノンフィクションを書くことができたんです」と門田氏。

「人間には命があって、限られているわけだけれど、その生命とは違う、時空を超えた不思議な力を母校は持っていて、いつも感動させられるし、勇気づけられます。それがわたしにとっての中央大学。だから私も母校の力になりたいと思うわけです」

「それだけに」と、門田氏は語気を強めた。「最近の中央大学のあり方は非常に残念だ」という。そのひとつが中大付属中学校の不正入学問題に絡む一連のゴタゴタ。そして、もうひとつが中野区の警察大学校の広大な跡地を、積極的な対応を行わず、結果的に都心の新キャンパス取得ができなかったことだ。

全国に講演に行くと、「わたしも中央大学出身です」と、地方の名士になった多くの先輩たちが声を掛けてくれる。そういう先輩たちが、「最近の中央大学はどうなっているのか」と門田氏にしょっちゅう聞いてくるという。「わたしなりの解説で厳しい現状をお話します。わたしは、中央大学の本当にすごい大先輩たちの毅然として生き様を書いてきました。それだけに、いまの足を引っ張り合うような母校の姿を側聞するにつけ、非常に腹立たしいし、情けないと思うんですよ」

いまの現役中大学生に対しても、「非常に地味。積極性にも欠ける。何か線が細くなった気がします」と手厳しい。

では、どうしたらいいですか?と尋ねると、「戸田学長ではありませんが、『学内で学ぶだけでなく、外に飛び出そう』ですね。当時マスコミを目指した人間として、いまこそ中大学生はジャーナリズムの門を叩けと言いたい。そして、真実の声に耳を傾ける“人間の本質を描く”ジャーナリストが育ってほしい」

門田氏とはGHで一緒だった。学生時代からの毒舌は健在、いやますます磨きがかかっていた。わたしも現在マスコミで仕事をしている身。門田氏が言うように、ジャーナリストの一員として、そしてOBとして、愛する母校のためにものを申していくべきだと感じた。

会員の近況だより



白門58会の皆様大変ごぶさたしておりますがお変わりございませんか。私は14年ぶりに島根県松江市から北海道に帰郷いたしました。札幌の雪の多さにびびり、結局、千歳市でひと冬を過ごしました。マイナス20度の体験は初めてでしたが、雪はそれほど降らず、案外と楽しく冬を乗り切りました。

岩原美佳（文・史 北海道・千歳市在住）



私は和歌山白門会に所属、大阪、京都、兵庫、奈良の方々との交流が最近、活発になってお互いの総会への参加等を行っています。

東京へはなかなか出向けませんが、もし可能であれば大阪の方で中心になっていただき「白門58会関西支部」などの飲み会でも開催していただければ、協力させていただきたいと思います。

内畑雅年（経・経 和歌山・和歌山市在住）



「西高東低」、気圧配置は日々刻々と変わりますが、なかなかの難題が地方の活性。地方分権も最近ほとんど聞かなくなりました。最近聞くのは、議員の「ヤジ」の性質と過去の行状ばかり。（議員になる前の事が映像付きで見れる）

さて、地域活性での「西高東低」とは九州のこと。西には高速道、新幹線と揃って三年経過。東と言えば宮崎県ですが、この3月によりやく高速道路が県内で一本に。建設要請から50年で悲願達成。まだ大分の一部で用地買収が済まない所あり、東の完成には数年を要するそうです。

7年前、前知事誕生とともに脚光浴びた宮崎だったのに、相次ぐ「災害」（鳥インフル、火山噴火、口蹄疫…）で県民は悔しい思いしてきました。おかげで音楽と花火のイベントは秋に5年目を迎えますが、それでもせいぜい2万人ほど。

明るい話題は、地元日南市でキャンプのカーブが今年開幕後Aクラスでしょうか?当初は優勝の期待も固かったのに、交流戦でブレーキが…「カーブ女子」なる言葉も生まれ、球場に若い女性が増えてるようですが、しょせん都会の話し、宮崎ではいまだに民放2チャンネルでタマのカーブ戦(^_^)観戦。

高速道と言えば、あと4年後(?)に宮崎市から南下するコースが我が町を通ります。すでに稲の穂が出てくる田んぼを横切るその姿は立派な道路です。あとトンネル1本(5km)。その人口4500人のまちで、地域活性の代表の私は毎日が活性酸素にあふれています。（諸先輩のもとで青色吐息）

黒木康夫（商・会 宮崎・日南市在住）

※58会ブログへの書き込みをお待ちしています。

2013年度活動報告

有志のイベントを活発に開催

2013年度は総会に伴う行事は実施しませんでした。また、ホームカミングデーが中止されましたので、会全体の活動は休止となりました。

一方、有志発案による活動は活発で、忘年会、お花見イベント等を開催しました。それらの活動の告知や報告はブログとFacebookで行いました。

なお、ブログ「中大ニュース」、Facebookは複数の幹事メンバーにより週2回更新を継続しています。

2013年度活動報告

- 6月23日 幹事会 決算報告確定・総会議事承認
 - 7月 4日 総会 議事承認
 - 8月10日 会報第5号発行 (8月17日発送完了)
 - 12月21日 忘年会 (高田馬場・キリンシティ)
 - 3月29日 お花見イベント (神楽坂)
- ※その他、他支部との交流 (総会出席等)

2013年度会計報告

収入合計 214,000円 (繰越金を除く)

支出合計 101,921円

収入は、総会費 (維持費含む) の徴収を行わなかったため前年に比べ約50,000円減少しました。

支出は会としてのイベントを開催しなかったこと、ホームカミングデーで予定していた寄付を行わなかったことなどから、前年に比べ約190,000円減少した。

The image shows a screenshot of the White Gate 58 Association's Facebook page and website. The Facebook page is on the left, showing the profile, timeline, and a post about the 2013 graduation ceremony. The website is on the right, showing the homepage with a search bar and a list of events. The website has a red border around the search bar and the list of events.

イベント報告 Facebook記事より いいね!

Facebook記事はブログにも転載しています。58会のFacebookとブログは、複数の幹事が担当し、週1回以上の更新を行っています。

◆前年の忘年会の報告 2014年1月9日発信

おはようございます。そろそろ皆様日常生活に戻れた頃ですか?それともまだまだですか?ちょっと遅くなりましたが、今年の58会忘年会のご報告をします。

12月21日土曜日午後3時より高田馬場駅前のキリンシティにて、無事開催 (オーバー)。

参加人数は、支部長・会計・提案者の3名のみかと心配しましたが、支部長のふんばりで何とか10名の方々が集まってくださいました。それぞれ自己紹介をし、現在の生活のこと、学生時代の

ことと話が進み、楽しいひと時でした。

◆お花見イベント 2014年3月31日発信

こんにちは。先週土曜日29日“58会・遅～い新年会&お花見イベント”開催しました。

参加人数、男2名、女6名のちょっと“女子会”的な感じになりましたが、楽しいひと時でした。

神楽坂近辺の桜は五分咲きくらいでしたが、趣のある界限を軽く散策して“春”を感じてきました。また五月頃イベントを考え中です。次はもう少し参加人数、増えて欲しいと願っております。

◆総会・上野散策イベント報告 2014年5月19日発信

5月17日土曜日、58会イベント・上野散策及び総会・懇親会、無事開催できました。上野散策は参加者6名、総会・懇

2014年度活動計画

他支部交流の機会を促進

2014年は前年に引き続き、有志発案の小イベントを多数開催し、活動の活性化をはかります。また、ブログ、フェイスブックでの情報交換を活発させるとともに、ブログや会報への執筆者を増やすとともに、会報発送件数を増やし会員増強をはかります。他支部との交流は、幹事、一般会員の多くに呼びかけ、学員会補助費の範囲で参加費の支援も行うこととします。

2014年度活動計画（行事予定）

5月16日	学員会支部長会議(駿河台記念館)
5月17日	総会・上野散策の会
5月17日	学員会総会(駿河台記念館)出席
8月 3日	暑気払いイベント
8月31日	会報6号発行*
10月26日	ホームカミングデー
12月予定	忘年会
1月予定	新年会
3月予定	お花見イベント

年次支部協議会開催時に出席、ブログ更新随時

*会報は当初予定より1カ月遅れて発行



2014年度予算

収入合計 468,920円 (前期繰越金238,920円を含む)

支出合計 468,920円 (次期繰越金を含む)

前年、発送部数を控えた会報については、本年は非会員への発送件数を増やし、入会促進をはかります。

親会は9名、ちょっと少なめでしたが楽しく終えることができました。

◆上野散策：会員の内山 勢さんにご案内いただき、上野といえはの「西郷さん」を見学。記念写真を写撮影。花園稲荷神社、国立科学博物館、上野東照宮と廻りました。知らなかった物が色々あってちょっと驚きでした。

◆総会・懇親会：八吉上野店でビールで喉を軽く潤しながら総会。役員の留任と定期的にイベントを企画すること等を探択し、後は懇親の宴へ。内山さんお世話になりました。



暑気払いイベント 2014年8月2日開催

8月2日土曜日、今年3回目の白門58会イベントを開催しました。

また5月のイベントのようにちょっとした散策でもしようかという話になっていたのですが「ソツ待てよ、今度は8月だよね…散策はやめましょう。熱中症で倒れる危険性大だよ。大体、猛暑の8月に散策しようなんていう企画、参加者ゼロじゃない？」と幹事間メールのやり取りで相成り、屋内イベントに決定。色々考えましたが、会員の何人かが言っていた「寄席なんかどう？」に曳かれて新宿『末廣亭』で昼席の観覧にしました。

第一部、新宿『末廣亭』にて昼席（12時～16時30分）、軽い昼食として助六寿司のお弁当をたべながらの観覧。10名の方にご参加頂きました。

第二部、末廣亭斜向かいの中華料理店『満月廬』にて懇親会。わりあい大きなお店ですが、庶民的でお洒落な雰囲気は全く無いけど安心して飲み食いできる所でした。こちら10名の参加でしたが、寄席の後お2人帰られて懇親会のみ参加が1名、ゲスト御一人の10名。

ゲストというのは咄家の金原亭世之介さん。58会会員でこのイベントにも参加してくれたY君のお知り合いで、急遽懇親会にも参加してくださいました。

世之介さん、この日は出演予定ではなかったのですが、Y君が観覧に来るということで兄弟子の咄家さんに替って貰ったそうです。

ビール・紹興酒・烏龍茶を飲みつつ、楽屋裏話など聞かせて頂きとても楽しかったです。

以下、参加者の方々の感想を載せさせていただきます。

☆初めての寄席でしたが、とても楽しく聞いていました。また機会があれば来たいですね。（Nさん・女性）

☆初めて寄席を体験しました。とても面白くおなかを抱えてたくさん笑いました。（Kさん・女性）

☆涙が出るほど、笑えました。（Oさん・男性）

☆題材の選択によって面白さが加わるので脚本も大事ですね。（Yさん・男性）

☆生まれて2度目の寄席、楽しかったです。いっぱい笑いました。（Hさん・女性）

☆初めてでしたが、日本の文化を楽しめました。スゴイ日本人！（Iさん・女性）

末廣亭は木造で寄席情緒を感じられる数少ない建物ですが、皆様がそれも含めて楽しんでくれていたようで、幹事としては嬉しいかぎりでした。「皆、笑ってくれるかなあ？ち～っとも面白くなかった、とか言われたらどうしよう…」等など内心ビクビクでしたが、皆様ガラガラと笑っていたみたいで、“幹事、安堵”でした。

参加の方々に席確保に協力していただいたりもして、愉しくイベントを終えることができました。皆さんご参加ご協力ありがとうございました。（58会・会計）

▶ 維持会費納入のお願い

今年度の維持会費払込特典は 中大応援ロールバナー& 白門タウン誌・ビジネス誌 維持費1,000円以上のご協力をお願いします。

白門58会は入会金・会費無料で運営しています。会の運営費は、会員の任意の維持費と会報の広告、学員会本部からの支援金などによって賄っています。維持費は会報発送費のほか、白門支援金など学員会や大学への寄付に充てています。

維持会費は1,000円以上、いくらでも結構です。維持会費ご協力の方には、金額にかかわらず学員会制作のロールバナーと白門タウン誌・白門ビジネス誌を謹呈します。

数に限りがありますので、品切れの場合はご容赦ください。年内のお振込をお願いします。

振込先

ゆうちょ銀行（武蔵府中郵便局）
00181-5-433209
白門58会（ハクモンゴハチカイ）



▲「白門タウン誌・白門ビジネス誌」

全国の様々な業態で学員が活躍していることを伝えることを目的に発行されました。あわせて全国各地域の白門会も紹介しています。



▲「中大応援ロールバナー」

箱根駅伝や硬式野球部をはじめ各種のスポーツ応援用の手持ち式のロールバナーです。大きさは縦24cm×横69cmで、巻き取ることができるため、持ち運びや収納にも大変便利です。

学員会費納入について

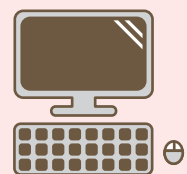
昭和58年当時は、卒業時の学員会（同窓会本部）への終身会費（30,000円）の払込は任意でした。そのため、未払いのため「学員時報」の送付や大学・学員会からのサービスを受けていない方が多数おられます。学員会費払込をご希望の方は事務局にメールにてご連絡ください。手続きをいたします。

会報編集者、ブログ管理者募集

本会では会活動の活性化のために、会報に加え、ブログ、Facebookを活用しています。

Facebookの「いいね!」、ブログの書き込み、そして会報編集者、ブログ管理者を募集しています。ご協力いただける方は、事務局までメールにてご連絡ください。

chuo58@noracom.co.jp



誼訪書房

どうしても書き残しておきたい
わたしの記憶・家族の記録
（自分史・家族史年表）

自分史づくりで最初のこと

冊子式 定価800円＋税

A4判 84ページ CD付

amazon・誼訪書房HPほかで発売中

誼訪書房

検索



広告・企画

PHIL PLANNING
株式会社 フィルプランニング

〒143-0023 東京都大田区山王 1-12-4 ヴァンティアン 100
TEL 03-3774-9018 FAX 03-5742-1218

沼津オフィス

〒410-0015 静岡県沼津市沢田町 6-31